

公益財団法人 8020 推進財団

平成 23 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：

3, 4, 5 歳児の親子歯科健診における、親子間のう蝕、歯周病リスク因子の関連性調査

2. 申請者名：

社団法人 千葉市歯科医師会

3. 実施組織：

社団法人 千葉市歯科医師会

4. 事業の概要：

う蝕と歯周病は感染症である。その成立には、生活習慣や宿主の状態も関与するが、予防には感染のルートと感染時期を明らかにし、それに対する対策を取ることが最も有効な手段である。特に歯周炎に関してはその罹患者数の増加が認められている点から対策が必要とされている。しかし、これらの病原体の感染ルートと時期に関しては未だ不明な点が多い。本プロジェクトでは、う蝕原性菌および歯周病原性菌の感染について親子健診の患者を対象として解析を加えその定着時期を明らかにすることを目的とした。

5. 事業の内容：

すべての親子のサンプルのそれぞれ 94.3%, 97.1%のサンプルから 1×10^5 以上のミュータンスレンサ球菌群が検出された。その range はやや親の方が高くなっていた。さらに親子での検出量について関連を比較したが全体では相関関係は認められなかった。*A. actinomycetemcomitans* の検出率は親 (5.6%), 子 (2.8%) と低かったが *P. gingivalis* は 38.2%の親と 19.4%の子供から検出されていた。このうち 4 組の親子では、親子共に *P. gingivalis* が検出されていた。しかし、chi-square test では親子間の感染の関係は認められなかった。

6. 実施後の評価 (今後の課題)：

口腔細菌叢の解析は主に歯周病の病因解明のためのために行われたものが多い。そのため、歯周病原性菌に関わる低年齢での菌叢解析は非常に少ないため疫学的な意義が認められる。とくに、19.4%の子供の唾液から歯周病原性菌の検出が認められたことは注目に値する。この結果は、歯周病原菌の定着が非常に早い時期で起こっていることを示し、歯周炎の予防に関し、乳児期でのアプローチが必要であることを示唆する非常に重要なデータとなっている。しかし、今回のデータではまだ例数が少ないため、今後はそのさらに例数を増やし、データの信頼性を高めることが必要であると共に、介入実験等による、早い時期からの予防による効果を検証するような方向性を模索しながら今後の活動を行っていく必要がある。